11/4
東海

9条とともに未来へ

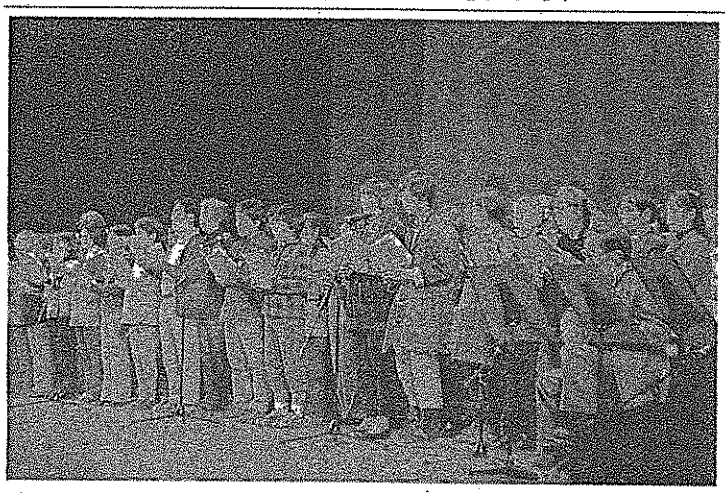
岐阜 平和のつどいに1200人

岐阜市で1日、憲法9条を守り、生かそうと「平和のつどい」が開かれ、会場の岐阜市民会館は1200人の参加者でいっぱいになりました。「岐阜・九条の会」や個人でつくる実行委員会主催。

実行委員長の平井花画さんは「戦後70年、平和を共有してきた。子どもや孫、未来の人々が平和に暮らしていけるよう土壌をつくる責任がある。憲法9条に恩返しするときだ」とあいさつしました。

代表呼びかけ人の一人で映画監督の神山征二郎さんは「中国の杭州に『日中不再戦』と書かれた元岐阜市長の松尾吾策氏の石碑があることを知り、岐阜市民でいたことを誇りに思う。日本で誇れるのは文句なしに憲法9条だ」と来賓あいさつしました。

同志社大学教授の浜矩子（のりこ）さんは「グローバル時代の救世主　日本国憲法」との命題でユーモアを交え講演しました。震災後に福島の部品工場が生産中止となったら世界中の自動車生産が止まったことをあげ、「大手であっても、最小の力に支えられなければ事業を継続できない。これがグローバル時代の本質。みんなで一緒に生きていくことを示しているのが日本国憲法だ」と語りました。



沖縄の「命どぅの宝」を群読する参加者＝1日、岐阜市民会館

安倍首相の「新3本の矢」を痛烈に批判し、GDP600兆円（現在の2割増）達成自標は、国防費増額、一億総活躍と一体化であり、高齢者も生涯現役、死ぬまで働けの政策だと指摘。「アベノミクス」を打ち破れば、「正義と平和が出合うとき」に至り、恒久的な憲法9条の世界が広がると述べました。

市民参加の群読では、岐阜・九条の会代表呼びかけ人の一人、平方浩介さんが沖縄の歩みを創作した「命どぅ宝」を60人で読み、さとうきび畑を合唱しました。

団体職員の女性（57）は、「適格な指摘で励まされた」と感想を語り、健康友の会の女性（71）は「元気がもらえ、さらに頑張っていきたい」と決意を述べました。